

## 第9回 甲賀市小中学校教育のあり方審議会 議事概要

1. 日 時：令和4年10月24日(月) 14時30分～16時00分

2. 場 所：甲賀市役所4階 教育委員会室

3. 出席者：〔委員9名〕(敬称略)

狩野秀樹、伊藤孝子、中西三夫、山田昭、池田静香、前川志津子、青木秀樹、  
八木正隆、中野和彦

※欠席：なし

〔事務局(市)〕

学校教育課 村地次長 松村参事

教育総務課 田原課長 田中室長補佐

〔傍聴者〕

1名

4. 内容

開会

市民憲章唱和

1. あいさつ

会長

皆さんこんにちは。

急に朝夕が寒くなり、年々春と秋がなくなってきたかのような、そういう季節になってまいりました。

昨今のスポーツでは昨日もヤクルトが9回裏に、高校を出て2年目の選手がホームランを打つなり、ゴルフでは高校を出て2年目で日本オープンへ、若年化していくことはものすごく良いことだと思いますが、かといってその子も生まれた時から力を持っているわけでもなく、ひとりの子どもがあきらめず頑張ってやろうと目標をもって、それを応援する、アドバイスする環境が良かったのだと思います。

時代が変わろうとも思いは一緒でありますし、どうかこの思いを私たち大人が良い方法を皆さんと一緒に考える時間になればと思います。どうぞよろしく願いいたします。

会長

それでは次第により会議を進めます。まず次第2、会議の概要報告、議事概要について

です。それでは事務局より説明を願います。

#### 事務局

それでは会議の概要報告についてご説明させていただきます。

資料1をご覧ください。

- 1、会議の名称は第8回甲賀市小中学校教育のあり方審議会
- 2、開催日時は令和4年9月26日月曜日14時30分から15時50分。
- 3、開催場所は、甲賀市役所4階教育委員会室です。
- 4、議題は、会議の概要報告、議事概要について、小学校教育教科担任制、ICT活用、小中一貫教育について、今後の教育環境づくりについて意見交換です。
- 5、公開または非公開の別は公開です。
- 6、出席者は、8名欠席1名と事務局職員です。
- 7、傍聴者数は、0名です。
- 8、会議の資料は、会議の概要報告、議事概要です。
- 9、議事の結果概要は、会議の概要報告、議事概要について事務局より説明をさせていただきました。小学校教育教科担任制、ICT活用、小中一貫教育について、事務局より説明をさせていただきました。今後の教育環境づくりについて意見交換していただきました。
- 10、その他はございません。

資料2をご覧ください。

第8回甲賀市小中学校教育のあり方審議会議事概要です。

会議の発言内容を簡略にまとめ、議事の発言内容の記録欄には委員のみの表記とさせていただきます。以上、説明とさせていただきます。

#### 会長

ありがとうございます。このことにつきましてご意見ご質問はございますか。

ないようでしたら甲賀市附属機関の会議の公開等に関する指針第8条に基づいて市のホームページに掲載させていただきます。

#### 事務局

「豊かな体験と総合的な学習をつなぐ地域学の創造」について、本市では既に平成29年度に教育研究所で作成をし、各学校の取り組みについて進めさせていただいております。

この図は、小学校1年生から中学校3年生までの地域学に関する系統を示した図でございます。

それぞれの中学校区、例えば水口中学校区、甲南中学校区において、このマニュアルに沿って計画し、実践していくものでございます。

それでは、小学校1年生から簡単に説明をさせていただきます。

1、2年生は「校区および甲賀市に親しみ、身近な自然や人、生活に関心を持つ」ことを目標として主に国語、生活科、図工等において、地域の方々から学んだり、地域の特産物を作ったり、まちの様子について絵に描いたりするような活動が盛り込まれております。

次3、4、5年生は、総合的な学習の時間や外国活動、また社会科等の教科において校区や甲賀市の良さを知り、より親しむ目標のもと、それぞれの地域について学んだり互いに考えたり調べたことを紹介し合ったりしております。

特に3、4年生は社会科において副読本を活用しながら、地域の産業や伝統等について詳しく学んでおります。

次に、小学校6年生、中学校1年生はひとくくりにして系統立てております。

小学校6年生から中学校1年生までの小中学校を見通したカリキュラムとなっております。

ここでは、各地域の主に歴史、伝統、産業について、それぞれが課題を持ちながら調べたり発表したりする中で、地域についての理解をより深め、それぞれの子どもたちが地域社会の一員としての自覚を持ちながら、地域を大切にしていこうという心情を養っております。

最後に中学校2年生、中学校3年生ですが、主に、学びを深めたことについて発信する活動が示されております。

例えば中学生国際交流では、伝統的に本市ではアメリカのミシガン州3都市と、韓国の利川市と交流を行っております。

ここ3年間は、コロナ禍によって、通常の事業ができておりませんが、オンライン交流で進めております。

この事業は、互いのまちの紹介や文化、伝統について触れる活動をしております。

また、職場体験等を通じて地域の特徴ある産業にも触れたり、紹介しあったりする活動も行っております。

以上のカリキュラムについては各中学校区において、実態や受け継がれてきた内容も合わせて年間計画を立て実践していくものですが、その取り組み方、取り組み内容等は校区によってさまざまであると認識をしております。

今後小中連携、また小中一貫教育という観点からは、更に連携を深めることも重要ですし、お互い中学校小学校で共通理解を深めて、実態に合った取り組みについて、少しずつ実践しながら、お互いに考える機会を持つことが大切であると考えております。

以上説明とさせていただきます。

## 会長

ありがとうございます。地域学についてご質問がありましたら、お願いします。

この「学習の仕方や部活動について伝えよう」と書いてありますが、その部分について教えてください。

## 事務局

小学校6年生の体験入学等がありますけれども、これも中学校の教員よりも生徒たちが自分たちでプレゼン等を作り、それを小学6年生に対して、いろんな行事等について説明していると思います。

会長

わかりました。

次に、教育についてのアンケート調査結果の説明をお願いします。

事務局

教育についてのアンケート調査結果1ページをご覧ください。

きわめて小規模の学校は、多羅尾小学校、朝宮小学校、小原小学校、甲南第三小学校です。

質問2、学校が楽しいと思う時は、どんなときですか。(あてはまるものをすべて選んでください。)

回答が1番目に多かったのは、2. 友だちと一緒に勉強や活動(作業)をする時で割合は82.1%でした。

その他の小学校の割合は、76.1%、中学校(全体)は、83.5%でした。

以上説明とさせていただきます。

会長

教育についてのアンケートについて、何かご意見ありますか。

人数の少ない学校のところで数値が高いということは、そう思っている子がたくさんいたから上がっているのですね。

事務局

そうです。

会長

このアンケートは4年生からですか。

事務局

4年生以上です。

小学校4年生から中学校3年生です。

会長

よろしいでしょうか。

次をお願いします。

事務局

2ページをご覧ください。

質問3. あなたが大人になるためには、どんなことができるようになると良いと思いますか。(あてはまるものをすべて選んでください。)

回答が1番目に多かったのは、7. 人を思いやるやさしい心をもつこと。83.6%で

した。

その他の小学校の割合は、4. 社会のルールを守ることで77. 7%、中学校（全体）は、79. 2%でした。

以上説明とさせていただきます。

会長

ありがとうございます。

〇〇委員どうですか。

委員

子どもたちと普段から接していますが思っている以上にしっかりしています。

無邪気さとともにしっかりしているといつも思います。

私は、近所のおじさんとして出会っていますが、勉強するときにはちゃんとそういう風に真面目に聞いてくれているので、その点はしっかりしているなと思います。

会長

嬉しいですね。これはよいことだと思います。アンケートしてよかったですね。

では次をお願いします。

事務局

それでは3ページをご覧ください。

4. 甲賀市（身近な地域）のことを勉強することについて、あなたはどう感じていますか。（あてはまるものをすべて選んでください。）

回答が1番目に多かったのは、1. 知らなかったことや新しい発見があって楽しい。

80. 6%でした。その他の小学校の割合は、69. 7%、中学校（全体）は、53. 9%でした。以上でございます。

会長

〇〇委員何かございませんか。

委員

きわめて小規模な小学校の子どもの方が、その他の小学校の子どもよりもすべてにおいて割合が高くなっているのは、なぜ高くなっているのだろうかと思われているのですが、なかなか思いつかないのですが、何か事務局の方で話はありましたか。

事務局

事務局でも分かりませんでした。

委員

きわめて小規模の小学校の子どもたちの方に目が行き届きやすいと思います。  
小規模校はやはり一人一人に目が行き届き、先生方の指導もし易いのかなと思います。

#### 委員

学校の経営自体に、例えば私の知っている小学校の運動会では今はコロナで参加していませんが、地域と一緒にしたり、学校の草刈を保護者だけで出来ないから地域の人に助けてもらっています。そのことは、小学校でも子どもたちに説明してくれているみたいで、いろんな人によって学校が動いていることを、子どもたちは実感していると思います。

#### 会長

皆さんには、こういうこともやってみたらどうかとか、こういうことも大事にしておいで欲しいと思うことを今日は皆さんに自由にお話をさせていただきたいと思っています。  
まず、教科担任制についてです。すべての学校でやって欲しいこと、大事にして欲しいことはありますか。

#### 委員

教職員の配置など、教科担任制を小規模な学校で、今の甲賀市の中で一律進めていくのは非常に難しい話ですし、小規模な学校の中でどういうふうにそこを補っていくのか、現状でしたら大きな学校、教職員の免許の問題も含めて、そろえていける学校が実施できることですので、その辺については非常に配慮とか、今後の対応が必要だと思います。

#### 会長

〇〇委員が言われたことは、例えば小規模の学校ですと、先生が1人の子どもを見る割合は高いですが、大きな学校になると、なかなか1人の子どもを見る割合が低くなるので、できたらたくさんの目で、たくさんの先生が関わりの中で子どもたちを見るのが大事だとおっしゃっていただいたと思います。

子どもたちの多くのことが見てあげられるためにも教科担任制が大事だということろです。

小学校の教科担任制の先生と中学校の教科担任制の先生の違いはどのようなところでしょうか。

#### 委員

やっぱり教科の時間だけで入れかわる中学生と小学生の授業の中で低学年ほど、言葉だけでも表現できませんし、低学年は本当に子どもの動きとか表情とかで、その子どもの様子まで感じることができるので、その辺のことを担任の先生とその教科担任制の先生の連絡、気づきの交換ができる場と時間は小学生の方がやっぱり必要だと思います。

#### 委員

子どもを見る目が多くはなりますが、先生同士の連絡や気づきを共有する場と時間はぜ

ひ確保できるようにすることが大事だと思います。

会長

小学校と中学校の教科担任制は差別化するためにも小学校は関わってあげる先生が増えるところをもっと大事にして、情報交換も含めて教科担任制が望ましいのではないかというお話だと思います。

次に時代に即した学校指導体制で特に学校で取り入れたタブレット端末のことについて大事にして欲しいと思うことがありましたらお願いします。

委員

子ども側よりも教える先生側の勉強は、今までの教科書に替わる教え方ができる能力、技術の研修が必要だと思います。

そうすることによって、学校のレベルが一緒になると思いますし、子どもの方は、与えられたものを一生懸命すると思います。教える先生方が大変だと思います。

会長

全教職員の ICT に関する研修は、ありますか。

事務局

オンラインで研修の機会もありますし、各学校でリーダー的な教職員が、「こんなことをやると子どもたちは関心を持った」とお互い情報交換の場を定期的に設けています。

国や県が事例資料をどんどん作っていますので、それらを学校へ配信しています。

会長

どんな先生も教育の効率化を図る上で、先生も ICT を活用することで、よかったと思ってもらえないといけないと思います。

事務局

最近では、どの教科においても ICT をいかに効果的に活用するかは必ず盛り込まれています。

会長

〇〇委員がおっしゃったように先生の ICT 活用能力を高める点では、オンラインが良いのか、勉強会が良いのかはありますが、子どもに指導する部分では、やっぱり先生の資質も向上するほうが良いと思います。

委員

15年から20年近く前からパソコンを社会人講師として小学校で教えていましたが、当時は先生でもやっぱり3分の1ぐらいはパソコンを触るのが苦手な方もいましたが今は基本的にパソコンの画面でやりとりしているのが普通で、先生方は、パソコンをどう解

積して考えて画面にしていくか、パソコン自体に対しての苦手意識はなくなっていると思います。

僕が教えていた頃は、子どもたちは大人が使うようなソフトでもすぐに覚えてくれました。パワーポイントで小学校のアルバムづくりをしたときも子どもたちはすぐに覚えてくれました。

#### 会長

発信能力や情報収集能力は、効果的に課題を解決するための ICT の活用を子どもたちができるようにする部分です。

今は、子どもたちはすぐに調べることは昔に比べたら百科事典を図書室に行って見る事をしなくても、検索したら出てくるのですが、自分に必要な資料をいかに整理して、自分のものにするかという部分で ICT の活用の仕方はすごく大事だと思います。

以前は朝顔とか、1年生ですと探検バックを持って行って絵を描かせていましたけれども、今はもう写真ですね。

体育は動画で跳び箱などの動画を撮っていますし、自分がいかに情報を収集して考察するかという力のために、その方法として ICT の活用の部分を知ることが必要だと思います。

#### 委員

授業に行って、タブレット操作で終わってしまったという体験は調べと学びに入っていないことがあるので、それを学びと体験は今おっしゃったように、手軽に得られた情報、検索した情報等をどう使うかの次の段階だと思います。

オンラインで運動会の練習を家庭で出来ることを考えると、学校と家庭教育が合理的に繋がってやっていることは言えると思います。

#### 委員

もう1点、子どもが学校へ行くのにランドセルが重すぎることの解消になっていくのではないのでしょうか。

#### 会長

電子教科書についての動きはどうか。

#### 事務局

一部は導入を始めています。英語です。

ただやっぱり紙媒体の良さもまだまだありますので、すべてがデジタルに移行するっていう時代はまだまだ先だと思います。

今しばらくは併用で、ランドセルに入れる物をちょっとずつ減らしていけるかもしれませんが、しばらくこういう状況が続くと思います。

#### 会長

子どもは、家へタブレットを持って帰って Wi-Fi 環境はどうなのですか。

事務局

Wi-Fi 環境ない家庭については教育委員会の方からルーターを貸し出しています。

会長

貸出件数は、どのぐらいありますか。

事務局

数件です。

当初貸出を思っていたほどはありませんでした。

会長

さっきの中学校の総合的地域学の中にもありましたが、観光客に例えば、子どもらが地域で学んだことを、例えばタブレット端末でその観光マップを作り上げたり、それからホームページを作るなど目指すものが中学校にはやっぱり必要だと思います。

中学校にもなると ICT の活用で、例えば、観光マップを作成して、駅の改札を出たら置いてある。それが好評だと京都駅において、京都駅で観光客が見て甲賀に行こう！ということになる。

目指すゴールが決まってくると地域学も良くなってくると思います。

委員

私が住んでいるところの自治振興会では防災の取組みの中で、子どもの目線で調べて回って、大人の背の高さでは分からない、「この塀はかなり迫ってきている」とか、それをマップにしてくれたのが非常に役に立っています。

会長

以前は、絵で描いていたが子どもでも動画が撮れて、子どもの目線は大人とは全然違いますし、そういう点での活用も良いのではないかなと思います。

委員

若手の先生は、大学卒業して間がない方はすごく技術を持っているのですよ。僕らが2、3時間かからないとまとめられないことをほんの30分でやってしまう。

会長

中学生だとゴールを示してあげると、ICT の活用が上手になると思いますね。

小中一貫教育に向けて、学習面や地域学、今までは小中連携と言って来られましたが、ねらいとしてこういうことは大事にしておいて欲しいこと、〇〇委員、何か思われることはありますか。

## 委員

メリットもデメリットもあると思うのですけどね。

今は小学校、中学校は6・3制です。

今言われているのは、中学校が2年で、小学校が2つ、3つに分かれていくという形ですけれども、どういう形が良いのか、具体的に難しいと思います。

義務教育学校もありますし、併設型や分離型の小中一貫もあります。どれを選択していくかは、地域の方の考えも入れたほうが良いと思います。地域に認めてもらう共通認識を進めることも大切だと思います。

地域の方の考え方をアンケートで取ったり、地域との連携を進めるということが最初にしないといけないことかなと思います。

## 会長

小中一貫教育の特色として、地域の人に認めてもらえるような、何を一貫してされたら良いと思いますか。9年間の思い当たる教育内容はありますか。

## 委員

行事的なものは出来ますね。私自身もそうでしたが、運動場などを共有したり、近くにあれば、小学校へ6年間行って、隣の中学校へ3年間行って運動場や運動会は共通で同時にやっていました。別に問題もなく、上級生の方も知っているし、5、6年生になったら中学生の知り合いもいっぱいできます。クラブ活動も楽しそうだなとか、何に入ろうかなとか、或いはクラブ活動が強いのだなあとか対外試合をやるのも見させてもらったりしていました。共通した行事も地域も含めて出来ます。

## 会長

宇治黄檗学園でも中学3年生の生徒があんまり悪いことができなくなったという話がありましたけど、お兄ちゃん、お姉ちゃんがいる、中学生が近くにいるという形が良いのだと思います。

〇〇委員、こんなことを小中一貫してやって欲しいという内容は何かありますか。

## 委員

その学校で目指す子どもを全教員が共通して持って欲しいと思います。

小中一貫教育というと小中併設が望ましいと思います。

いろんな制約があって難しいとは思いますが、やっぱり宇治黄檗学園のようなのが望ましいと思います。

離れてあるとやっぱり一貫なのか連携なのか、はっきりしないようになってしまうことを危惧します。

## 会長

近くにいる、近くに人が見えるというところが一番望ましいわけです。

〇〇委員、このような教育内容は小学校も中学校も同じように考えてやって欲しいなど思うような内容は何かありますか。勉強のことや学校行事のことでも結構です。

#### 委員

やっぱり年齢が離れていると、6歳、7歳離れていたら近所の人でも中学校のお兄ちゃんちょっと怖いみたいな感じになりますが、もし学校が一緒だったら、1年生は6年生のお兄ちゃんかっこいい、もっと上級生がいる、近所でもこのお兄ちゃん知っているとなるのではないかと思います。

小学校と中学校は、今、別なので中学校のお兄ちゃんは怖いみたいになってしまうけれど、もし小学校、中学校が一緒であったり、何か一緒にしたりしていたら、このお兄ちゃんを学校で見たことあるから怖くないと感じられるのではないかと思います。

一緒にいるなら全く他人には思わないし、低学年からしたら、高学年のお兄ちゃんのかっこいいし、憧れに思うし、そうなりたいと感じるから、一緒に何かをやったら良いと思います。

#### 会長

その何かをやったら良いということですよ。何かをやることで、さらにお兄ちゃんの良さが分かるようなそういう学校行事であり、地域学もそうだと思います。

#### 委員

私は、田舎体験をする都市部の中学生を私の自宅に招いて泊まってもらっていますが、その時に小学校と一緒に田植えをいつもしていました。今は、コロナでやっていませんが、都市部の中学生は初めて田んぼに入るのに小学生とペアを組むと小学生に田植えを教えていました。

#### 会長

関わり方を学ぶということですね。

上級生は下級生の扱い方や下級生は上級生との関わり方を学ぶことはアンケートの中にありました。人を思いやる優しさを持つことも関わり方を知らないと、人に甘えることもできませんし、人を注意することもできないのでそういう関わり方を学ぶ点でもものすごく大事なかなと思います。

自分が例えば鉄棒でだんだんできるようになったことを実感できるとか、漢字がたくさん書けるようになったとか、文書が書けるようになったことで、子ども自身を褒めてあげられて育てるような教育を小学校だけあんなに頑張っていたのに中学校は冷たい言い方をするのではなく、甲賀市はどの先生も赤いペンを持って一生懸命子どものノートに丸をして、子どもの頭をなでるとか、そういうことを大事にする一貫した指導の方法も大事なかなと思います。

若い子がどこかで褒めてもらおうとか自分もできるという思いがあるからこそ、いろんな子どもは育てているので、率先して甲賀市では一貫教育の中で大事にする。

目指す子どもの姿を小学校も中学校も共通理解して欲しいと思います。

〇〇委員、小中一貫教育について何かありますか。

委員

宇治黄檗学園の例を挙げておられますが、宇治黄檗学園の中身は、義務教育学校の制度と一緒です。

小中連携カリキュラムの統一とかありますが、具体的には校長先生が2人いると組織的な問題は大きいと思います。教職員の意識が二つできるような感じになっていることもマネジメントとしては問題があるかなとは思っています。

それとやっぱり甲賀市がやっている地域学を深めることはやっぱり地域連携、地域の取り組み、地域の課題の発信とか、地域から巣立っていったときにどういう力を持っているかという、大きな魅力的なジャンルだと思います。

教科担任制についてですが、人的配置とかそういう問題があるのですが、例えば、巡回授業、専門的な方が学校を回って、先生も子どもと一緒にその場で学んでいく指導。学校の先生も学べるという機会があっても良いと思います。

教科担任制で入ってしまうと、この先生お任せになってしまうのですが、当市の子どもたちもその授業で学ぶ、共に学ぶということを巡回授業なり模範授業でそういうことが当面あってもいいかなと、人的な不足の面を考えたらずう思いました。

会長

学校組織の問題で、例えば一つ屋根の下に、校長先生が1人の学校は、将来的にどうでしょうか。

委員

校長先生が2人いるよりは、1人が望ましいと思います。

だから、例えば小中一貫でも、小学校の校長と中学校の校長のすり合わせがまずできないと小中一貫は上手くないかなということを考えると、校長先生が1人は、9年間を見据えた点ではやり易いと思います。

そういうふうにして子どもを集めると〇〇委員、保護者は賛成ですか。

委員

賛成です。

会長

そういう特色があって、子どもを集めると、先生も良いものを作ろうとしてくれると思いますが、単純に集めるだけでは意味はないと思います。

私も現場の校長をしているときに、もともと幼稚園が別々でしたが、この新しい建物を建てるときに、幼稚園も含めた小学校になりました。

小学校の子どもは上靴のまま幼稚園へいきます。長休みに幼稚園の子どもに絵本を読んであげたり踊りを踊ってあげたりしました。

そのようなことをすることで、〇〇委員がおっしゃった甘え方や関わり方が上手になっていくのもやっぱり一つ屋根の下にすることで、自然とできる。

それと幼稚園の園長と校長が連携していないとできません。

〇〇委員、今後、小学校、中学校と一緒に建物になることはどう思われますか。

委員

それが一番望ましいとは思いますが。やはり1人トップがいてその人の指示のもとで、両方が動く、一緒に行動できるのが一番だと思います。やはり1人責任者がいてあとは、副校長なり教頭先生が個々にいるのが一番良いのかなと思います。

会長

人が減ってきたから一緒にしましたということになしに、こういう子どもたちを育てるためにスタイルを変えますという小中一貫教育の骨組みが良いのではないかというお話で、その中で〇〇委員が言われた地域学について、何かご意見等ありませんか。

委員

このアンケートの結果で、中学生の発信したいというところがすごく、技術は小学生よりもずっと持っていて経験もあるのですが、非常に低いし、観光マップの話が出ていましたけども、私たちの町の産業を伝えたいというのは、そこまでの学習があって最後にその発信だと思うので、自分の地域を語るとか、自分が生まれた甲賀市を外の人に伝えるという発信の意味で、小学校から中学校でもっとやりたいや自分が一步外へ甲賀市から出た時も、甲賀市について話せるような、また話したいと思えるような地域学は、小中一貫、継続した中で身につけていくことを長い目で計画して目指せるような学校、子どものあり方が良いと思います。何か甲賀市のことを語れる子になってほしいと思います。

会長

やっておられるが繋がっていないのだと思います。

委員

信楽に住んでいたら陶器と紫香楽宮、宮跡ですが、中学校へ行った時に小学校6年でも出た陶器のまちのことではなくて、もう一つ広げて私の住む甲賀市、中学生の段階では実際されていると思いますが、甲賀市にも目を広げて、私の町から私の市を紹介できるような取り組みになって広まっていくのが良いのではないかと思います。

委員

できるだけ、いろんな人に関わるという意味ではこういうことが大変良いと思います。

学年が変わると、私も毎年小学校5年生に地域の農業と米のことをずっと教えていますが、私の地域の小学校では、梅干し作りであったり蕎麦であったり、いろいろ交えて教えていますし、僕もブルーベリー園をやっているのでブルーベリー園にも毎年来てもらってそういうことを教えたりいろいろしていますが、やっぱり小さな学校ではなかなか材料が

少ないのでそのあたりはもうちょっと広がる部分と専門的にもっと地域の中で教えていくことがどちらも必要だと思います。やっぱり全体を見渡せる目も必要かなというふうに思います。私の地域の学校は鳥の学校で、児童は、ほとんどの鳥の鳴き声を知っています。琵琶湖にいる鳥とか全部覚えています。私の子どもと一緒に旅行などに行ったら、鳥の名前を全部言うと周りにお客さんが集まってきて、鳥の名前を鼻高々に言っている子どもの姿を見ると、私は専門的に覚えていくのも一つの細い道だけれどもそういうことも大切かなと思いました。

会長

〇〇委員、地域学についてどうですか。

委員

9年間でするのであれば、例えば中学校1年生2年生の子が小学校1、2年生の子に自分の育った地域を教えてあげる場もあって良いのかなと思います。

上級生のお兄さんがこんなことを知っているのだということ、自分でもその年齢になったらこんな勉強して、下級生に受け継いでいけるのも良いと思います。

会長

僕らも中学生になったらああいうことをするのだなとこれが伝統の始まりですね。

中学校の体育大会で3年生が喜んでる姿を見て、ああいう風になりたい、そのために頑張ろう。

小学校1年生から中学校の授業を見に行くことはできないのでタブレット端末を利用して、その中学校の取り組みを見るとか、隣の中学校は何しているのだろうということも例えば「まる一む」でパネルディスカッションを中学生がしても良いと思います。

甲賀中学校の生徒と土山中学校の生徒がそれぞれ地域学で勉強したことをカメラで映して全甲賀市の中学校や市民の人がタブレットで見るというのもあっても良いと思います。中学校には、何か子どもがやりたいなあと思うような目標や姿がもう少し足りないのではないかなと思いました。

市役所の玄関に入ってくると甲賀市の大きな地図があります。ボタン押したら、例えば中学生が信楽だったら信楽焼をやっている人のところでインタビューをしているとか、一緒になんか作っているとかが映ると良いと思います。中学校3年生になったら、もう少し違うバージョンでやってみようこれが伝統になっていって、地域学がより一層、どこにこだわったら良いのか子どもの発想で去年と違うものにしようと思いますので、ものの本質に迫るといえることができるのではないかと思います。

小学校は小学校なりに、中学校は中学校なりに地域のことを知る、学ぶ子どもの姿がこう変わっていくことを先生らが描いてもらえると、もっと地域学が楽しくなるのではないかなと思います。

土山小学校の校長先生が歌を歌っていただきましたが、惚れ込むことがものすごく大事だと思いました。

地域のことを勉強させることに惚れ込むことは、〇〇委員どうでしょうか。

## 委員

私がびっくりしたことは、息子らが子どもの頃に友達に来て、山の小川へ魚を捕まえに連れて行きました。

魚を網で捕まえてあげたのですが、生きた魚を自分で捕まえるのは初めてだということでした。

今の30、40歳の子どもでも小学校1年生になったら、ゲンゴロウや蛙などの生き物を捕まえる。小学校3、4年生になれば昔はどういう生活をしていたかを簡単で良いので勉強する。中学生ぐらいになったら、文化歴史に取り組んでもらうというような形で勉強したほうが良いのではないかと思います。

## 会長

中学生では、生き様を学ぶところに先生たちが力を注ぐことも必要かもしれません。

生き様は、例えば水口のかんぴょうがなぜできるのか。それは絶やしてはいけないと思っている生き様を持った人がいるということを中学生が知ることはそこにどんな熱い思いを持って仕事をしているとか、思いを持っているかを中学生に知らせるような地域学がものすごく大事なかなと思います。

地域学について、〇〇委員どうですか。

## 委員

福井県小浜は食育の町ですが、年少保育園のころからキッズクッキング、包丁を持たせて、料理教室を開いていくのですが、中学生、高校生が小浜から出ていくときに、大学生生活や社会人になった時、自分で料理ができるようにしてあげたいという方針があってやっています。スキルとして身につけるのですが、小浜は、大和政権に食材を送った御食（みけつ）文化があってそれを延々と伝えていっている。それをスキルとして伝えていっていることがあって、何かひとつのことを学んでいくと深まっていくのです。地域学の中で深まる、あちこちに目を向けて、生き様、深まるスキルを身につけるとかそういうところまでいかないと衰退してしまうのではないかと私も思いました。

どの地域に行っても、どの学校に行っても、絶対お宝があると思いますし、掘り起こしていないからお宝までたどり着けてないので、そういうことができる地域学って良いと思います。

## 会長

何か本質に迫るのは別に小学校ではなくて中学校3年生で良いと思います。

そこで初めて生き様やものの本質が分かってきた。九谷焼や今治焼とは違う信楽焼には粘土の色が違うということまで他所を見て初めて信楽の良さを分かる。そういうところまで中学生には地域学を学んで、地域を発信するということ、自分の学校の中でちょっとだけでも信楽焼についてしゃべることができる子どもを育てることを大事にする。そういうことではないでしょうか。

それでは最後に、皆さんに今日4つのことについて話をさせていただきましたが、次回は

いよいよ提案する部分について、話をしてもらいます。この4つのことについて、私はこういうことにこだわる教育にして欲しいということを一言ずつ皆さんお話していただいて終わりたいと思います。

こういうことを大事にして欲しいと思うことを2分ほど置きますので、考えていただきたいと思います。

#### 委員

最初の方で話をしたこの審議会設置の話などを振り返って読んだりしています。

一つは、甲賀市の教育の望ましいあり方。

もう一つは、学校、子どもたちが減っていく中で規模も小さくなっていく学校は多いですし、逆に、今の規模を維持したり、増えていく学校もあつたりして甲賀市はそういう意味で差があると思うのです。

だから、自分の身近な保護者からそういう話をよく聞きます。学校ではものすごく丁寧に教えてもらえる。将来、今の保育園の保護者が小さい学校だけれども実際に丁寧に教えてもらえる。小さい学校でこの子らが小学校へ行ったら2人、3人になると思うのですという話を保育園の保護者がされています。

その時に、学習とか、人間関係とか、将来におけるやっぱり人との関わりとか、少人数における人間関係の弊害もありますし、そういう意味での不安とか、結構子育て世代のまだ小学校に入る前から悩まれています。親や子どもが安心する甲賀市の教育であってほしいと思います。信楽に住んでいますので余計そのように思います。

#### 会長

安心ということは明日も行きたいなと思ってもらえるような学校づくりが必要だと思います。〇〇委員いかがですか。

#### 委員

僕も人との関わりというのはものすごく大事にしていききたいことと、それから地域の発信ということが出ていましたけれども地域のことを何でも語れる子ども、そういう子どもの育成を地域学や人との関わりを大事にしていききたいなと思います。

#### 委員

昨年度の提言で集団での学びの大切さを具体的に進めるために今年度は4本柱ができました。

この4本柱のそれぞれ一つ一つはメリット・デメリットがあるので、これをしたら絶対良いというわけではないと思います。バランスだと思います。それをどう組み合わせるかということかと思います。

そういう意味で、例えば小中学校でうちはタブレットを使っているから、個別学習でもう十分いいのだ、ネットワークつくればそれで良いのだっていう発想もある反面、多様性を学ぶのにそれだけで良いのかっていう問題も出てくると思うのです。

バランスを考えると、規模が大きい、規模が小さいにこの4本柱のバランスをどう甲賀

の中で、作っていくかということが大事だと思いますが、集団で学ぶというのがベースに必要だと思います。

#### 委員

私は、今、朝ドラで飛行機の話、子どもらの教育はグライダーでやれという話が昔からあって、良い風に乗せてあげて、ずっと飛んでいくのが教育。

でも大学の先生から言わせると自分で卒論を書くときに能動的にできない子が非常に多いと聞きました。

だから、どこかでエンジンをつけて自分で飛べる子になって欲しいというのが一つ、それからどういう環境であれ、自分で考えて自分で動ける子どもというのを育てていかないといけないと思います。

どのようにこの子らが動いてくれるか、そういうところが見られるような学校づくりが必要だと思います。

#### 委員

やっぱり子どもが楽しいと思えないと学校へ行かないし、自分が小学生の親になって、まず学校へ行かすことも大変だと思ったし、毎日楽しいことを考えて明日これがあるからと言って、子どもの気分を高めて学校へ行ってもらっています。楽しい、まず子どものことを第1に考えている学校づくりをしてもらえたらと思います。

#### 委員

ちょっと思い返しているのですが、小規模校、きわめて小規模の学校は、他の所からも人に来てもらって、小学校として人数を集めておられました。私は日野のスポ少でずっと教えていたのですが、中学校に入って子どもに変化があって、登校拒否になっているようです。

だから、小中一貫教育は変化が少ないので非常に良いと思いますが、その小学校から中学校への変化が少ないということについては、その子にとっては非常に行きやすい環境ができるので良いと思いますし、そこに魅力を感じさせてあげられると思います。

中学校へ行ったらこんなに良いことがあるということ子どもが思えると不登校も減るのかなと思いますし、教科担任制などいろんなところで魅力のある教育にしようと思って私たちは考えるのですが、子どもの立場になって一番何をしたら、子どもたちが魅力を感じてくれるのかを考えています。

そうすることによって、もっと子どもたちのためになるのかなと思っています。

#### 委員

人間は、1人では生きていけない。集団で、関わって生きていけないといけないので、やはり集団をまずは教えないといけないと思います。

学校で社会生活を営むこと、幼稚園から学んでいるのかもしれませんが、小学校中学校の間にそういう社会性をきっちりと身につけるためには、ある程度の規模の児童数、生徒数もいるのではないかと思います。

社会性を身につけるための集団生活、集団の学びが大切だと思います。

#### 副会長

私は記録させていただいて、特に感じたのですが、やはり地域学とかICT、小中一貫教育は一つの連続するものであるとすごく感じました。

委員の皆さんがおっしゃっているみたいに、学校の望ましいあり方を考えたときに、人との関わりの中で、子どもたちが育っていくというところの大切さ。

そのために、地域学であったりとか、その地域学の学習を通してICTを活用したり、それから9年間の学びを保障していくところは、本当に甲賀市の子どもたちにとって大事だと改めて感じました。

#### 会長

ありがとうございます。

皆さんにおっしゃっていただいたことが今初めてここで議論するようなことではなく、それぞれのことがこれまでも学校とか地域で言われてきたことですが、どこか形骸化されているとか、形式的になりがちな部分をもう一度子どもの目線や子どもの将来を見据えて、考えていく必要があるのではないかとというところで、友だちも大事にして、学校を大事に、学校が大好きになって、地域を学びながら社会性を身につけていくという一貫した部分で、この4つのことについて、言われているのではないかなと思っています。

次回は今日お話していただいたことをもとに、提言書の文言を皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

次回のことについて確認していきたいと思いますので、事務局お願いします。

#### 事務局

今回は11月14日月曜日午後2時半からこの教育委員会室にて開催させていただきます。

内容は、本日の意見も踏まえまして、提言書(案)を会長、副会長でまとめていただきまして、委員の方に内容確認、加筆修正後、提言書を教育長に委員の皆様からご提出いただけたらとそのような計画をしております。よろしくお願いを申し上げます。事務局からは以上でございます。

#### 会長

次回の会議は、11月14日月曜日午後2時半から教育委員会室で開催させていただきます。それでは事務局お願いします。

#### 事務局

長時間にわたりましてご審議いただきましてありがとうございます。

それでは最後に副会長より閉会のごあいさつをよろしくお願いをいたします。

#### 閉会挨拶

## 副会長

私はまず、このアンケート結果のことですけれども、特に3番の「あなたが大人になるためには、どんなことができるようになると良いと思いますか。」について、その結果を見せていただいたときに、上位の3つが「友だちと仲良くできること」、「社会のルールを守ること」、「人を思いやるやさしい心を持つこと」で、子どもたちが大人になるためこんなふう感じてくれ感じていることをすばらしいなと思って見せてもらっていました。

自分自身が今、幼児教育に関わっていて、幼児期の終わりまでに育てて欲しい姿が今、幼児教育それから小学校の教育の中で大事にすることを例として国が示しています。

その中では、例えば「協働性」というのがあります。ここでは、友達と関わる中で、幼児期の終わりまで園を卒園するときにはこんな姿でというのが示されています。それが「友達と関わる中で互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて考えたり工夫したりして充実感をもってやり遂げる」というのが幼児期の終わりには育てて欲しいとして示されています。「道徳性とか規範意識の芽生え」とか、それから「言葉による伝え合い」など10項目に分けて書いています。

例えば、アンケート結果の「社会のルールを守ること」がこれだけ数値が高いというのも、本当に甲賀市の今行われている教育は、子どもたちが将来こんな風な大人に育ててきたいという確かな育ちの中で教育がされているということを改めて感じました。

この今のこうした子どもたちの姿はやっぱり将来にわたって、子どもたちが育っていくためには、これからのこの人口減少社会であったり、様々な状況の中でも、こうした子どもたちを育てていくために、次回提言をこの4つを柱にまとめられたら良いと思います。

少し長くなってしまいましたが、また次回、委員の皆さんのご協力をお願いしたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

## 事務局

ありがとうございました。

これをもちまして第9回甲賀市小中学校教育のあり方委員会を終了させていただきます。